

「女性の活躍促進・企業活性化推進営業大作戦」

## 第18回 埼玉労働局長（代田雅彦）の企業トップ訪問

平成26年2月26日、(株)埼玉新聞社の小川社長をお訪ねしました。



（右から小川社長、関根経営企画室長、安野経営企画室課長）

### 〈訪問企業プロフィール〉

(株)埼玉新聞社（代表取締役社長 小川 秀樹）

さいたま市北区吉野町2-282-3

日刊一般紙の発行、各種広告の企画・制作、出版・印刷業等

労働者数 169名（うち女性 43名）

### 〈訪問のあらまし〉

平成26年2月26日、(株)埼玉新聞社に、代表取締役社長小川秀樹氏をお訪ねしました。取締役経営企画室長の関根正昌氏、経営企画室課長の安野竜平氏にもご同席いただきました。

同社は、日刊一般紙埼玉新聞を発行し、埼玉県民に親しまれ、信頼される紙面づくりに取り組んでいらっしゃいます。

現在、週1回のペースで、経済面を利用し女性を活用している企業の紹介をしており、「輝くきり企業という意味で、『輝 きりり☆オフィス』という紙面としています。それぞれの企業でいろいろな工夫があっいいですね。」と、県内のポジティブ・アクション企業の普及にも一役買っていただいています。

### ～女性社員の採用増加～

同社の社員数は169人（パート等非正規社員含む）で、そのうち女性は43人（25%強）、また、正社員の女性は23人となっています。

「採用人数については、昨年の4月は男女2：2で、今年4月は2人とも女性になっています。近年の状況をみていると、若い女性の能力はとても高いです。才能ある多くの女性に、採用試験を受けてもらっていることはいいことです。」と小川社長がご説明くださったように、特に若い年齢層の女性比率が高くなってきているとのことでした。

一方で、「新聞社という業体そのものは、比較的早い段階から、男女雇用機会均等について、かなり意識してはいたのですが、これまでは、女性にとって長く勤められる企業体かというところではなくて、結婚しても子どもが持てないとか、仕事優先で家庭がおろそかになっていた女性も多かったかもしれない。」とのことでした。そのため、現在は、「早帰りしたいというようなことに関しては、職場の空気は柔らかい方だと思います。家族や子どもが病気だといえ、対応できる空気を作るよう心掛けています。」と、仕事と家庭の両立に配慮をされているとのことでした。

### ～男性の育児休業～

現在、育児休業中の女性記者の方がいらっしゃるとのこと、関根室長が「その記者に対する後輩女性記者の期待というのがありますね。独身の記者は『復帰が楽しみだ。是非、見習いたい。』と言っていますよ。」と話されると、代田局長も「育児休業を取っても、あんなふうにして活躍できるんだというのが具体的に見えると、安心して育児休業が取れますね。」とコメント。また、小川社長は「将来、後輩たちが子どもを育てて



復帰しやすい職場作りに取り組んでいるところです。保育所に入れるタイミングが重要だということがわかったので、4月のならし保育に合わせ、育児休業期間を、子が2歳になった翌年の4月末まで延長しました。」と、具体的な取り組みについて言及されました。

また、同社では早い時期に、男性の育児休業者が2人も出たそうです。1人は48日、もう1人は半年の休業だったとのこと。育休日記を記事にして、赤ちゃんの写真などを入れながら連載したところ、好評だ

ったそうです。

「制度は作るけれど、なかなか男性で手を挙げてくれないというところが多い中、進んでいますね。」と代田局長。

今後は、男女問わず、育児休業する社員が出た部署の穴埋めをどうするかが課題とのことでした。

### ～管理職への登用～

代田局長が、女性の役職者の状況についてお尋ねすると、副部長が2人、課長が4人、主任が4人と、23人いる女性正社員のうち、10人が役職に就いていらっしゃるとのことでした。

小川社長は「これからは、会社を背負っていけるような女性の管理職（部長以上）を育てていきたいと思っています。全体を見られる、俯瞰できるような人材を、男女ともに育てていきたいです。」と意欲を示されました。代田局長は「役職が上になるほど、見る範囲が広がり責任も重くなります。登用に向けて、計画的、意識的な取り組みをお願いします。」と申し上げました。

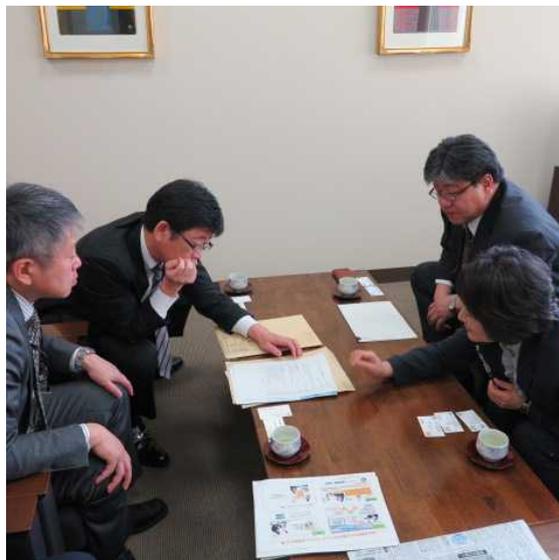
### ～公職へ進出した女性記者～

同社の元社員の女性には、現在、さいたま市議会議員として活躍されている方がいらっしゃるということです。

小川社長が「記者だった女性が、退職して地域の中に公職として進出したんですよ。

取材していて熱がこもり、こうなったら直接さいたま市を変えなければと。埼玉新聞社元記者という看板も少しは役立ったかもしれないかもしれませんが、なによりも本人の熱意に賛同してくれる方がいたおかげです。」と紹介されると、代田局長も「どういう取材をしたか、どういう記事を書いたか、それ以外にもどういう活動をしたかを、支援する方々が評価してくれたのでしょう。」とコメント。

さらに、小川社長から「女性がもっと議会に進出しやすくなるような空気を作るのが、報道機関としての仕事ですね。」と力強いお言葉をいただきました。



地域に密着し、日々県内外のニュースを的確に発信し続ける埼玉新聞社。仕事と家庭を両立しながら会社を牽引する女性管理職が誕生することを期待しています。